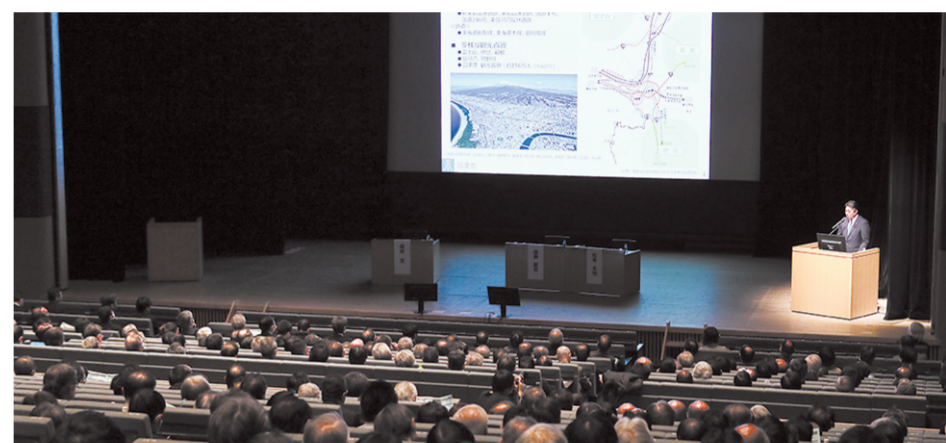


官民連携と地域連携で 実現する地方創生

～実装に入った地方創生 具体的事例から考える持続可能な経済循環～

日経地方創生フォーラム「官民連携と地域連携で実現する地方創生～実装に入った地方創生 具体的事例から考える持続可能な経済循環～」(主催=日本経済新聞社、共催=UR都市機構、後援=内閣府)が1月22日、東京・大手町の日経ホールで開催された。「地方都市再生の実現に向けて」をテーマにしたセッションの講演と議論を紹介する。



基調講演

これからの沼津のまちづくり―鉄道高架を活かして―

沼津市長

頼重 秀一氏



静岡県沼津市は東名高速や東海道新幹線などにより広域交通アクセスに優れ、富士、箱根、伊豆、沼津港など多様な観光資源にも囲まれ、産業・観光などで高い立地ポテンシャルを持つ。ただ、これらの強みは市の南北に展開しその中央部を鉄道が横断するため、本来のポテンシャルを生かすことが難しく、中心市街地内の回遊性もあまり高くない。

そこで中心市街地では「沼津駅周辺総合整備事業」として、鉄道高架をはじめ土地区画整理、市街地再開発など6事業を段階的に進めている。沼津駅近郊の鉄道高架化では8路線の道路が立体交差化し13カ所の踏切がなく、市民の安全・安心が確保される。鉄道と交差する3カ所のガードは2車線から4車線に増え、まちなかの回遊性が大幅に向上する。新しく生まれつつある沼津市街地を、駅周辺の公共空間の再編を進めていく。また、駅周辺の百貨店跡地を再編したUR都市機構と連携し、駅周辺の公共空間の再編を進めていく。また、駅周辺の百貨店跡地を再編したUR都市機構と連携し、駅周辺の公共空間の再編を進めていく。

基調講演

糸魚川市駅北大火の復興の方向へ

糸魚川市長

米田 徹氏



新潟県糸魚川市は海と山に囲まれた自然豊かなまちだ。日本の国史ヒスイを産出し、北陸新幹線で東京から2時間余りで来られる。2016年暮れ、糸魚川駅北側で発生した大火は145市街地56事業所を焼失させ、市街地は変容し果てた姿になった。だが風害による自然災害とされ、国の支援を得られたことで再建は早期に進んだ。2カ月後に新築からにぎわい創出

はがれが撤去され、また国土交通省から副市長、UR都市機構から復興管理監督が派遣され、復興推進課を組織。8カ月後に復興まちづくり計画を策定した。同計画は①災害に強いまち②にぎわいのあるまち③住み続けられるまちを方針に掲げる。災害に強い都市基盤整備や住宅再建は順調に進んでおり、①②は実現へ着実に近づいている。

今後の大きなテーマは③だ。以前から矢張りつつある中心市街地ににぎわいをどう取り戻していくか。取り組みの1つ目は様々な価値観の人々が集まって化学

地方都市再生の実現に向けて

人々が集い、楽しく活気あるまちを

共催者挨拶



UR都市機構 理事長 中島 正弘氏

URは蓄積生かし新たな挑戦へ

最優先で取り組んできた東日本大震災の復興事業に少し時が見えなかに、地方都市の取り組みも今後さらに進めたいと考えている。団地等の現場におけるコミュニティづくりのなかで、われわれは時代に応じて、地域に求められる開発やまちづくりを担ってきた。URには、地方都市再生は新たな挑戦の場がある。地方都市再生は新たな挑戦の場がある。地方都市再生は新たな挑戦の場がある。地方都市再生は新たな挑戦の場がある。

パネルディスカッション

地域は資源の宝庫 工夫次第で価値向上

坂井 地方都市の様々な課題を解決するには、地域資源や特性を生かした安全、快適なまちづくりが不可欠。まずはお二人の取り組みについて伺いたい。



- パネリスト
スノーピーク地方創生コンサルティング 会長兼社長 後藤 健市氏
高い創造研究所/賑わい総研 代表取締役 松本 大地氏
- コーディネーター
東京都市大学 都市生活学部 教授 坂井 文氏



後藤 健市氏



松本 大地氏



坂井 文氏

後藤 失敗を恐れずに動くことが大事。個性豊かなヒューマンシティに地域の特性を生かすまちづくり。坂井氏

松本 失敗を恐れずに動くことが大事。個性豊かなヒューマンシティに地域の特性を生かすまちづくり。坂井氏

坂井 失敗を恐れずに動くことが大事。個性豊かなヒューマンシティに地域の特性を生かすまちづくり。坂井氏